釧路教育局教育支援課便り

ASIRU ーアシルー

令和５年 12 月 21 日発行　第 23 号

令和５年度(2023 年度) エビデンスに基づく資質・能力育成事業「第２回 EBE 協議会」

12 月 12 日（火）、全小・中学校、義務教育学校のミドルリーダー及び公立高等学校の教務主任等を対象として、小・中・高 12 年間を一体的に捉えた児童生徒の学力や学習状況等の分析結果を踏まえ、組織的な授業改善や学力向上等に向けた校内体制の整備、具体的な授業改善の方法等への理解を深めることを目的とした「第２回 EBE 協議会」を実施しました。本号では、協議会における説明や実践発表等の様子について紹介します。

説明　北海道高等学校「学習状況等調査」・「ＣＢＡ学力テスト」、令和５年度全国学力・学習状況調査等の結果の活用について

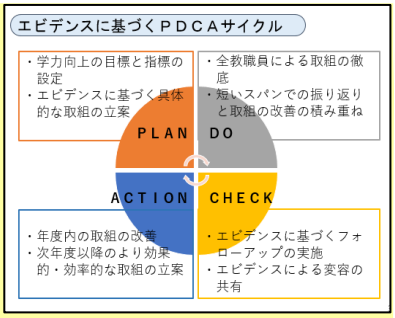
【説明のポイント】

①高等学校の「学習状況調査」・「ＣＢＡ学力テスト」は、知識及び技能や思考力・判断力・表現力等が生徒に身に付いているかを把握し、授業改善に生かすことが目的であること。

②「全国学力・学習状況調査」は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てること、継続的な検証改善サイクルを確立することを目的として国が実施するものであること。

③授業改善の方向性として、知識及び技能を活用しながらより深く理解していく学習活動、児童生徒が主体的に問題発見・解決の過程を遂行していく学習活動、理解したことと自分の考えや経験とを比較したり、関連付けたりする学習活動、他者の説明を解釈したり正確な表現に修正したりする学習活動が重要であること。

④改善に向けては、**各種調査を活用し、継続的な検証改善サイクルを確立することが必要であり、調査結果で現状を分析、分析を基に教育指導の充実を検討、学習活動の重点化などを学校全体で推進していくＰＤＣＡサイクルを繰り返していく**ことで、教員間で児童生徒の課題や授業改善の方向性が共有化され、取組の方向性が徐々に一致し、組織力が強化されていくこと。

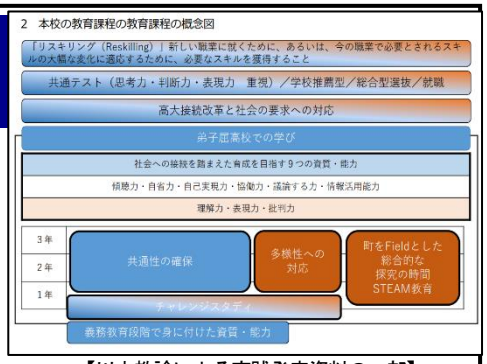


【説明で示したスライドの一部】

実践発表①「生徒が必要とする資質・能力の育成に向けた組織的な授業改善の取組の状況と今後の方向性について」
北海道弟子屈高等学校　川　中　理　樹　教諭

弟子屈高等学校が育む９つの資質・能力の育成に向けて、学校独自のアンケート調査やリーディングスキルテスト等を実施し、エビデンスに基づいて正確に生徒の実態を把握した上で授業改善を行うことの重要性等について具体的に御説明いただきました。

参加者からは、「数値等のエビデンスがあることにより、各教員の目指す授業改善の方向性が同じになり、自然と組織的な取組になるという言葉に納得した」などの感想が聞かれました。

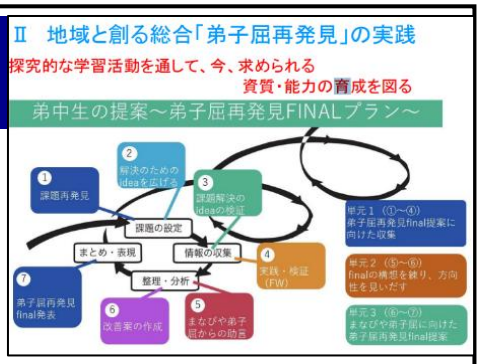


【川中教諭による実践発表資料の一部】

実践発表②「地域で目指す 18 歳の生徒の姿を見据えた組織的な授業改善の取組の進捗状況と今後の方向性について」
弟子屈町立弟子屈中学校　谷　口　　亮　教諭

発表では、教員一人一人の主体的な授業改善の取組が促されるよう、リフレクションを大切にした意図的・計画的な研修を推進することや、総合的な学習の時間の充実が各教科等の授業改善につながることの重要性について具体的に御説明いただきました。

参加者からは、「ＰＤＣＡサイクルを意識して、学校の授業改善の取組を検証・改善することの重要性が分かった」などの感想が聞かれました。



【谷口教諭による実践発表資料の一部】

参加いただいた先生を中心に各学校で本協議会の内容を共有し、「エビデンスに基づいた資質・能力の育成に向けた組織的な取組」の改善・充実を図りましょう！